

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3791600020
法人名	社会福祉法人正友会
事業所名	グループホームよりあい
所在地	香川県仲多度郡まんのう町東高篠285-1 (電話)0877-58-8755

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年6月9日	評価決定日	平成20年7月2日

## 【情報提供票より】(20年5月16日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)19年8月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 7人 非常勤 1人 常勤換算 7人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500円	その他の経費(月額)	18,000円	
敷金	有( )円	無( )		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380円			

### (4)利用者の概要(6月9日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	7名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	76歳	最高	95歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	いわさき循環器・内科クリニック
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景が広がる中に、ディサービスが併設された平屋造りの日本家屋風建物で1ユニットのグループホームである。広い敷地内には手入れされた菜園があり、数多くのプランターには季節の花が植えられて、野菜作り、収穫と花作りを利用者は楽しんでいる。当事業所は社会福祉法人正友会を母体とし、老人福祉に豊かな経験と人材をもち設立された施設である。利用者の暮らしの場を「その人の家」として求め、医療機関との連携も確保されていて、安心した生活が送れる体制が整っている。地域に根ざした介護サービスを目指し模索、検討している。これからの展開が期待される施設である。

## 【重点項目への取り組み状況】発展

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回、初めての受審である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がそれぞれに自己評価し、管理者がまとめるという形式で取り組んでいる。初めての自己評価で正面から取り組み、細部まで検討している。自己評価の振り返りで職員の介護に対する方向性が同じであると再認識でき、またこれからの介護の質向上に欠かせない部分と認識しており、積極的に取り組んだ姿勢がうかがえる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催されている。ホームの利用状況報告、利用者の生活状況をスライドで報告している。また、理事長からの議案、その他検討事項が話し合わせ、会議を通じてホームへの認識が深まり、求められる介護のあり方を探求している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者家族へ写真を添えた状況報告書を送り、日々の暮らしぶりを報告している。現金出納簿も一緒につけ家族の確認印をもらうようにしている。また、利用者・家族等アンケート用紙を添え、ご意見をうかがっている。いただいたご意見ご要望は管理者および職員が即検討し、対応するとともに記録して保管している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域ボランティア受け入れは菜園作りの指導を受けたり、共に作業をしてもらったり積極的に行われている。ご近所の方が新鮮な野菜や果物を届けてくれたり、また、ホームからおはぎなどの手づくりの品を届けたりして交流を図っている。今後も利用者が地域の方々と馴染めるような機会をつくり出せるよう期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「知愛一如」を基に創設者の老人福祉に対する思いから四項目の理念を独自につくり上げている。地域密着型サービスとしての姿勢は十分うかがえるので、これまでの理念に地域生活の継続を支援する内容を加えていかれることが望まれる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の考え方を日々の支援の目標としている。しかし、管理者や職員間で理念について話し合う機会が少なく、より具体化した取り組みについては検討中で今後に期待したい。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受け入れ、ご近所との日常的な声かけや交流はあるが、ホームが地域活動への積極的参加が望まれる。自治会の入会は検討中である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の実施意義について、管理者、職員は十分理解している。全職員の介護の方向性も再確認し今後の課題を見出している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し、活発な意見交換をし記録に残している。しかし、メンバーに自治会長の参加がなく、地域の理解と支援の機会が十分に活かされることを期待したい。	○	地域に密着したホームを運営をする上で、自治会長をはじめ地域の人々の参加呼びかけは大切である。また、ホームのこれからの取り組みのモニター役としても働きかけることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日常的に町の担当者と連絡を取り、運営推進委員会に参加いただいたり、ホームのパンフレットを置いてもらい広報に協力をお願いしている。その他相談指導を受けるなど連携し、サービスの向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月利用者家族へ写真を添えた状況報告書、現金出納簿、利用者家族等アンケートを添え、暮らしぶりを報告している。面会時にも報告しているが、面会の少ない方には電話をして、面会の声かけ状況報告を行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関カウンターに意見箱を設置したり、面会時に利用者・家族等アンケート、運営推進委員会などの機会にご意見をいただき、その都度対処し記録に残し運営に反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>創立から9か月目と日も浅く、また、理事長の理解のもと5年間は移動なしの方針で利用者との馴染みの関係に十分に配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人の研修、外部研修の機会があり自主的に参加している。資格関係の修得も計画され職員が意欲的である。研修内容については内部での伝達研修が行われ、職員のスキルアップを図っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>創設時には同業者と交流し、研修を重ねたが以後の継続がむづかしい。同業者との意見交換、相互訪問などは必要性を感じているので実現が望まれる。</p>	○	<p>サービスの質向上には他施設との交流や連携が不可欠である。今後、県のグループホーム協議会の助力も得て、近隣の同業者との相互研修の機会を持つよう期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居まで1～2か月の経過期間を持つようにしている。その間に1～2回の訪問調査の機会をもち、利用者・家族にホームの説明をしたり、利用者の状態を把握している。また、施設の見学に来てもらいその雰囲気を感じてもらいなど、徐々に馴染みの関係をつくりサービスの開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的雰囲気の中で利用者と職員の交わす会話はなごやかで、「支えあう関係がとけていると感じている」という職員の声がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者にてできるだけ寄り添うことを中心と考え、日々の生活で個々の想いを見出せるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族の希望、医師など関係者の意見を聴き、日々の生活を考えながら作成するようにしているが、受持ち制になっている担当者も介護計画作成に参加することが望まれる。	○	本人や関係者の意向は日々の関わりの中で聴いておき、受け持ち制になっている担当者を含む全職員で意見を出し合って、モニタリングやカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画を作成されるよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングは行われている。長期・短期の介護目標の評価更新が十分でないと思われるが、重要性は十分に理解し取り組んでいる。	○	介護計画の見直しを行うことは、利用者の細かな変化にそった介護を行うために大切なことである。今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添い、買い物の要望など必要な支援は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関を希望する場合は、家族と相談の上柔軟に対応しているが、現在は協力医療機関を受診しており、必要時には往診も受けられる体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重篤化した場合や予測される場合は、前もってホームで対応できるケアについては説明している。利用者と家族の希望を大切に考えていけるように、また、主治医と家族との十分な話し合いを職員が共有し、細かな対応をしていくことが望まれる。	○	創設から日も浅く、今までは適応事例はないが、利用者・家族の相談、対応マニュアルはもとより重度化や終末期に向けた方針を共有するために、書面作成に取り組むことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者のプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は見られない。記録物についてはシュレッダーを利用し個人情報保護法に関し遵守している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなホームのスケジュールはあるが、利用者の生活リズムを大切に考え、食事時間、特に入浴時間は可能な限り希望にあわせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で取れた新鮮な野菜を用いたり、調理を手伝ったり、味見をしたり利用者に出来ることを職員と共に行っている。対面式の台所で料理の出来上がる匂いに期待し、職員と一緒に会話をしながら同じ食事を楽しんでいる。片付けも役割りをもってしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回は入浴していただけるよう、また時間帯は夕食の前後2回に分けて、落ち着いて見守り入浴ができるようにしている。希望があれば入浴日以外でも入浴している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力を活かして、食事の準備、片付け、清掃、洗濯たたみなど役割りのある生活を送っている。また、菜園での収穫、縫い物など得意分野での楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1回は食材の買出しに利用者も一緒に行っている。また、希望があれば散歩に出かけたり、時にはドライブなどして外出を支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけないことが利用者・職員とも常態化している。玄関にはチャイムセンサーなどはないが、目を離さない介護が行われ利用者の安全が保たれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、利用者も参加して防災訓練は年2回消防署職員立ち会いのもと、避難訓練および避難経路の確認を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームで作成した献立を管理栄養士がチェックし、利用者に合わせた調理法で作られている。食事摂取量、水分摂取量は常にチェック記録して職員が情報を共有している。		
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはオープンキッチン併設のリビングで、日本家屋風な仕様になっている。天井は高く明るくゆったりとし、床は弾力性のあるフローリングで利用者によりやさしく清潔感がある。テーブルは多目的使用でリビングの変化が楽しめる。ソファに座ってテレビも見られる。広い畳敷きのコーナーが併設されていて、利用者が横になりながらくつろげるスペースになっている。しかし、広いスペースは他の人の気配を感じながら一人で過ごせる居場所、生活感、季節感があり居心地のよさや心身の活力を引き出す工夫が望まれる。	○	共同生活空間は自宅の延長としてその人らしく過ごせる場となるような工夫、配慮が必要と思われる。運営者や職員の感覚や好み、価値観だけでなく、利用者や家族、運営推進委員会のメンバー、その他来客などの感想や気持ちを常に聴きながら整えることを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室はベランダに面し広く、天袋と家具、ベッド、洗面台が設置されている。利用者は馴染みのある調度品を持参して家具の上に飾るなど、その人らしく居心地よく過ごす配慮がみられる。		